

8:パフォーマンスモデル~ライブラリー~

見出し	操作手順
	パフォーマンスモデル、ライブラリーを用いた作成方法について、解説をします。
	メニューバー 表示 、2番目の パフォーマンスモデル を選択します。
	こちらには、パフォーマンスモデルの一覧が表示されますが、こちらの 新規 ボタンをクリックします。
	該当の アセスメント を選択をした上で、作成方法として、既存の パフォーマンスモデル を選択し、 続ける をクリックします。
ライブラリーモデルの 閲覧方法(0:33)	次に、ライブラリーから該当のモデルを選ぶには、こちらの 閲覧 ボタンをクリックします。
	ご覧のとおり、英語で該当のモデルの一覧のインデックスが表示されます。
	今回は、Customer Service ということで、Customer というキーワードで検索してみましょう。
	そうすると、このような形で Customer Service という職務が表示されました。
	マウスオーバーすることで、その職務に関する説明文章が表示されます。
ライブラリーモデルの 出力方法(1:11)	また、こちらの プリンター ボタンをクリックすることで、このモデルのイメージがレポートとしてダウンロードされます。
	よって、このように Customer Service のパフォーマンスモデルを事前に確認することが可能となります。
	このモデルで良ければ、名前の上でクリックをします。
	すると、パフォーマンスモデルライブラリの中より、 Customer Service というモデルが呼び出されました。
モデル名の設定(1:48)	次に、 名前 を入力をします。
	ここでの名前は、PAC 中のモデルとして格納する際の名前となります。
	ここでは便宜上、 カスタマーサービス_ライブラリー という名前を入力をしてみます。
	左下の 作成 ボタンをクリックします。

	ここのポップアップは、はいで進んでください。
	すると、画面の通り、 カスタマーサービス のモデルが表示されます。
	この内容で良ければ、 有効化して保存 をクリックします。
有効化したモデルの確認 方法(2:39)	これで、有効化して保存がなされましたので、実際にパフォーマンスモデルのリストの中に、このライブラリのモデルが格納されたかどうかを確認してみましょう。
	こちらの通り、 カスタマーサービス_ライブラリー という形で、有効なステータスのモデルが格納されたことが確認できます。 以上がパフォーマンスモデルライブラリーを用いた作成方法の説明となります。